特別
へ4
7500
3

文保百目　六

特
ヘ4
クSOO
3

55-5493

聖護院宮　光助

道順僧正

百林院の弟子
後三位宣子

廿将内侍

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

部屋先の松のあらはれいくとなく袖をかぶりぬ
ふるさとの花はあらはれて部屋先のあるじ
めぐりあふ人もむしろ[illegible]
[illegible]山の[illegible]
あやうく[illegible]月のうち[illegible]
[illegible]月
[illegible]
一むらふる[illegible]
池[illegible]
秋は又[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

秋

[illegible]
いく[illegible]
秋[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
秋 出板
[illegible]
[illegible]

うきこゝろとなりあはれ先世の[illegible]
[illegible]せうれなりうへさ[illegible]
[illegible]
[illegible]

こゝに山五郎といふものそうしてゐる
ゐてあるが雪けのそらとうちわたるの月に
もえみのるものるゆ雪のあらひきあ[illegible]川の雪ぶ
野し山しるものむつ宮ゆきの雪沖れ世のそれの遠くこゝめる
ゆ流りの雪ろくたつる熊川のそれとわくさ水の品度
雪のとゝろやとうり流して遠あり世こう様ふめる
きし屋てゐる夜ゆけるうりみたのあるとみて長いつまて
ゆの国のこゝのわゆさうりれて雪のひまこ流れはふ
もしれゐる九ろうみさ川かゝん人神ゆあるん

憲

おりゆうり仏の元のうれやしてきの光の風乃ゆけてるまゝ
見すあるる花波さうみのうれ色川みてこひるうふ
うくこゆ見てよの雪ゆるうりれ生れたうれこまれ
かのうゆまの水れたうりこうる仏ゆつとまさし
人ゆうゆりみうくかるわのとゝうるむ見られゆ、
いまゝて色いてゝ雪れやうりるうゆ雪あうこ
雪ゆる雪ゆ見のれ花ゆていうこ流を神こくん
うくうりつれ紀人のうゆわれ様ふゆ者ふまるん
こゆのあてここれ仏こうゝ立て又いつまての日報海てん
ものれてゆかふくうれよの第こつる四金とけて遠て

[illegible]

雜十首

[illegible]

[illegible]

詠百首和哥

元雅上

春　二十首

[illegible]

雲のうへなるのゝ上にはのうのゝ
はるのゝ花のうへにあるとかり雲色つゝ山のうへ
雲毎に花や咲わふ吉の山のうへ
ゝ花せられて
ゝ
ゝ
ゝ

六月晦日のあさの山四方にこもれる人のくちふるさ
まきこるもといふの川みなそこのうも
野をたのくさのうはかぜふきしをれ
ふるさとの行のくわのはもとをやすらへ
なのよ八ふのうらもとをるあはぬ
ものふしやうら人はあかねさのしてあはぬ
秋二十首
風ふけば秋とはいへどつゆもなほ
ぬれもあへぬ袖の色かな
七夕の水川をる衣をふるはてもしきの初
つ

ゆふ霧の秋をやうらもとをる
ふるさとは秋の風
うきこと行ぬる秋の風ふくらん
あれすゝまして秋のあれ
月はやまの稍ふるひてきこ秋の山里
のそれわるもの一もとの
あはつ風ふきこしてあきの月
わ川海の松との月ここ
ムし秋月ふるふるさわ
わまはやまふるてふ川ふ

秋の月
青ふるふ
のつき稍
白雲の嶺ときこのわさのふる

いねてに麻しらかたりてあるのくき
屋のうちに落ふるしきこれ風やそのうちに雪はなん
淺田の雁やのわりつとうもおりやのたきていつ舟人
立田山あきをこめらる夕雲に紅葉〳〵いつ梅麻のうち
もくれ原所白わきこの木枯〳〵もち葉〳〵やらる海人
忘川にうつろふ色とうらはやてかれも庭の白菊
ちる月しらはしるこの笹原にかれ〳〵もきせのふる

みちのおくの

所領雲方の笹おもてにこれ嵐と水のうちうち
かすみて山もの寺やりうん いつ山もの庭の雪風
月さつ又さしめるくぬりうちれて山うち雪の風
うちはたこうちりも沒ふる色みれ風と木葉の隆ふる
所いらるるひとうち知ふ海〳〵風と木葉やうん
笹のくふ山もる波とうらはれて難波のせれ雪多ある
住吉のきつれ雪風雪きのきあいふふ勝け
白波のうちうきはうちあるれて山うれ方りとふる
雪あるき庭のみ笹のあてれ〳〵雪人のうう

衣ほのぼの風に川霧ふかし冷さ浦あ水の白波

恋の浦やこぎ出る舟の波ふ高こてあれ風に行おれ留

風をきわる舟の山の雪人に知れぬ心ぞ

天の原ふりさけ見れば白雲の雪に紅の雪の鶴の

うれ行の葉山の梢色こそ恋しけれ口もとおれる雪

山里の舟出の雪に知りぬ白雲の人の行くゆくを

恋 二十首

知りぬ恋の花を山の花ぞ恋ひてやて河の色ぞ恋ひん

色に出ぬ恋の水の水ぞ恋ひて人を立て

いかに人知の雪の山の初雪白波に風吹き波に風

高の形のふるさと雪ふる色ぞそめや

春野川の波の白波の雪人に知れぬ

知ら海の黒ぬれの岩水のうつり口ぶ

恋ぞ人の衣をあらはるあらはれ

ひさしぶりに恋をあらはるあらはれ

河川の波ぞ恋ひ人の恋ひ人の

ゆふ雲の海ぞ恋ひ人の恋ひ人の

人ぞ知る人の人の恋ひ人の

こひ風に白雲の白雲の白波

恋人の恋ひ人の恋ひ人の

[illegible]

雜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

卯月きさらぎ[illegible]入れる海士とまの[illegible]
[illegible]
[illegible]
色[illegible]新[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
霜雪[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

立二十五

我神[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

いとをしみ人のつゝませられてそのわつさ中河の水
なこの海のわつらはしさ思ひ乱れのまゝに人を立てゝ
つまゝてついとをしみ給ふ法の世にけてこのをとこん
きとそもしつゝ指のこゝろ
いとうとしく非常の事にわたれ人わすれて我無ん
花すゝきにのこんとしたりいる袖につゆとなりる
今はきこゝろのとゝやりこゝろ略はなつさ
こゝろの中はこゝろ立てうらはなをひくくらかな
いとをしみの家に二十三人のわをこゝろ
こゝろ法花経にこゝろ
はゆへの後とゝ人のこゝ

はいとをしみ十つゝこゝろ西とたゝこゝろに粉り玉をし
こゝろもいこゝろのこゝろ
こゝろみつる三つゝこゝろ
公きこゝろ

新十首

今日書わるゝ一文きこゝろ
世代ふ仏世かつゝ心
世とつゝこゝ
これの行ゝのゝ
いとこゝ

[illegible]

詠百首和歌

法皇定為上

春 二十首

久方の雲井長閑くうるおひぬ山もまさらん
きしの花 雲井なる山の桜の花 [illegible]
[illegible] 浦風 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]風の　そよ浪のあつくくれなゐ井かき梅の下水
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

五月雨の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わすれ草をつむとて初瀬の
はつせくるまに身をなぞらへ
夕ぎりにうつるわれてうつるとる
秋風にたちそめて白玉の
あきてぬきしの代にうつて大井河浪
の上にうかぶ月影
いく秋の老の秋をうつしあらん波をうつふ玉の月
長月の白の月ぞいくしぐれ
日数をへだてのこれの色にいつるをうつそはる秋雪

泊瀬女のはつせの山のうつるんやしけるうつ衣うつる
けさも行りうつるいやうつをうつ衣の色ある白菊
いくさとうつ行きうつるんにうつるみちの山ちうきこそし
きさとふ秋の白つきてせくさとふうつ長月の元

九十五首

山乃葉とうつるこそあらこそ花ぞ冬ふかう
あ〜山ふ入ぞ山ぞ山ぞ白ぞ
行て白ぞ山ぞ山ぞ山ぞ
けれの上あをさとふ雪ぞ山ぞ

わらはのきゝ〇いうへとやとてゆきいたらふ
かつらかのみきこのこゝろしゐ水とうちはとうとう騎
とこゝろ枕ひしきこゝろ風と見をれ出をれてなく元
みをれの時ゆゑこのるゝ藤を袖かくしく春あをれ
白ぬいとつりまつる田ぬかとうゝ言こゝ花宿とのかひうの月
月新あをひうゝあをを見白ぬの言とう言のかをて
ゝ浪乃あしひりと白ぬの言とう言ゝ待ゝ
みをれの新ゝゝゝかりきてかゝゝられる雁のゝ言

人とゝあ雁を言ぬゝてかりゝ入をれ
ゝ言風ゝゝ言ゝ言ゝ言ゝあ待ををひゝ言ゝ言ゝ
いゝふへゝ民の〇五あゝゝひゝゝいゝ年ゝ

憲　二十首

いゝて袖のゝみゝ川ゝゝゝゝ仏のゝゝ
秋袖のゝみゝをゝゝれゝ月ゝ立ゝ
若新や宿ゝ秋ゝ水のゝゝ人ゝ
秋風のゝゝのゝゝゝゝかゝゝ仏をいて
ゝゝゝゝゝ袖のゝゝゝゝゝゝ

せめてきたかたきうちやいかなる命をきりうをと
いくさんりあるるひとをれしくたるうにおきたるこしひ
めうきたひりく世界みちの分うちわとあれす
世のむかしのはるの子ふかはなたはうれとなひらしき
こうれはいたはるひのみ水とうしきはいとうしたのあた
ちこうてうたうたはのしたひのしたひつへきこと
はふたはいたはるの子ふかはうれとうるあ
わうはるはるはのわとれとあううとうとうん
泊瀬川しるふれとのきはいたはいたはいたはいたはいた

世へてはわはれはいたはるあや八重の桜はへてはりと
浦風に浪はこうはしはいたはいたはいたはいたはいた
るるはるはいたはいたはるはるはる

こく船のいまち多くしてなきこの乃さうの浪
せゝらぐ中に一枝の梅のうらぶれて花し咲ぬるさり
あわれなりとて幸わさきまきらこれわふと遠き
人なるに江戸の浦とたつまくらふ
きくくとよきこれ法のつゝはゆまくしあもと玉笑とうたまわ
ら地のひゝせ所の華千代神の七代のうちうらんん
ひゝと文百代ちとて我君のゆまひつき武蔵港

後二位宣子

春の花乃み成歌とたつてこの世のひとゝけるおもうん
うも先ゝうる事ゝ分ゝ分ゝ年ゝ言葉のえ
雅波ゝ歌ゝ歌ゝ月ゝ光ゝ星ゝ乃ゝ川物ゝ
ゝ染ゝて色ゝ色ゝをゝ歌ゝえゝけゝ玉ゝとゝ
美ゝあゝゝ行ゝ雲ゝものゝとゝ海ゝ乃ゝ
ひゝとゝして物ゝうゝとゝ多ゝりゝや神ゝ海ゝ
波ゝ多ゝ玉ゝ玉ゝ花ゝ乃ゝ玉ゝ風ゝとゝ玉ゝ玉ゝ柳
ゝ玉ゝ世ゝ人ゝ乃ゝ代ゝ乃ゝ人ゝ

[illegible]井の名のうらみを別にうつきを用
おほかなるけをやとかいかこと海ともしほの
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

てる月のやどりひとつやどるらん　よ寒の宿のうたた寝

秋の月　秋のえしきこゝろの内のあらはれ　月をとゝのへ月を伝とも

いく秋とうらなれてもいとはしく　いとはしくとあるをとゝのへ

あの海の秋の夜をしらせはやうらんうらなれてもあるつきあはせ

風をうる秋の山田のなるもしらぬ　なるもしらぬ秋の山田

をとこ風をうる家の名かいうらなれて　家つゝ秋のうら

秋をうらなれて嵐まつ風をうる紅葉ちるをしらぬやうら

もしのひとつまをうる長月のうらの月　月のうらの月

引あはせ秋のうらのつゆ　秋むしひとつある神のうり　秋

入方の思新うらふ山の紅葉　一村雲ちりきりたつうら

ふきこの山の山の紅葉　の紅葉の色　の色つまをうるみぎはの秋のうりけ

秋をうるこの山の山の紅葉　のうるおもの秋のうりけ

きこうらて人のうらけふ　秋をうる色の色ふ家れき

のうらやうらうらの山の色　水をうらん　秋をうる

山のの色　むしをうる秋　水をうりむ　木葉の色

うる色　をうる色　をうる

れ行の紅葉　の色をうる

ふうらの色　をうる

風さそふ[illegible]のそら紫[illegible]たちて[illegible]ふ
さと浦[illegible]初[illegible]りもとの海の面[illegible]秋[illegible]
[illegible]ねの羽[illegible]せしさ[illegible]夜[illegible]
きしそこのろ[illegible]ふ[illegible]秋[illegible]
うりさてとしふ[illegible]月[illegible]

うつ[illegible]ひ[illegible]
いそ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

西の下部にきくをみいきこのひとをとゝ代を
まき

服訊門院春日

ちきわといつる船のひとわたりを見人こゝ代をふる
ふるの海人の底にしるゆふなぎにあまのたく立
きしやらく言ふをきゝて
船人をとりの人の底にあまの家ゝ代にかくれ
ぬ

梅ゝえにうるはしきのあるゆきあれは置ふるとなす
ぶひめの御ゝ代ゝ
梅のもとにうゑもなくさしもけ
やりてをうきこの河原の言葉にかくれぬ
をとゝ以ゝあさこゝろ花のいろとゝ
いとゝ花はゝ
若ゝ代ゝ
あをとゝわはゝ
やゝて又ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いかなとうてかくて月ふいれのこうけうよ
秋の長雨ゆうのいとなりてと月さえれとや夜
をくれもこうろひけつとくとくこうの蔦
今ゆくやあるいもとくりあつ山さのしけてれ秋の
昔をそ長秋もあるしこの落しさいつやとぬ入日
五々八月ちるる花しとくれとしぬるえのきわん
毎秋秋をさのつるあるとや神のぬけるうふ心
ありとけるあるの秋をさひとけて花ゆる村時ふ
とふるまきよりてれけるらるるくかけふ
花つる秋やれとさるお花の神とくるる白つる

元にのこけるひてすくるあるしゆきとけるあるとる
浪しるるのとやこうくんくるれれの紅
みるるとけるさるるのるるくるふ紅葉浦
花ひるるるくるるいの神くるるる義くるる
まれるるるれるとるしけ浪やるの秋月雪のるる
いるくるれるるやるくんあ屋のるるのきあけ
今みるけるくるるさるるのすれるけるるる
立ねるるるるけるくるくるし冨士のるるのるる
さるるるるるけるくんの流るるるる庭の
流りて老るるふるくれりとるるるの花

いとなつかしき袖の香ゆへ
ふるさとの花ゆへ
なつかしさのあまり
ふるさとの花ゆへ
なつかしさのあまり
ふるさとの花ゆへ
なつかしさのあまり

曉はわかれをうとあれば三つ[illegible]
きしやてらき[illegible]なとうあ[illegible]
[illegible]
[illegible]

わまつをうゑおきたりしかとてるつきに
夕ゝをえんかうさこゝへとゝまりつゝ
ゆくすゑのあはれをもしたしうをもて
ゆくすゑのあはれをもしたしうをもて
ゆくすゑのあはれをもしたしうをもて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

浦也こゝにあるべしとあり此紫の色ことなるさ
ちなれば山ちかきに成べし花は先梅のさかりなん
まとゝまれかの神の社のこゝろ推しの夜
山乃端に出たる新しき月のうつくしうつゝ
夕日さすかとはるゝ海也されくゝるふ山の
ちをとゝろきの紫ちうまさ川をへて松ゆく
いつこと今朝こゝ出ていそのの神かるの山へ入みや
物やふ波をとて神奈月立られぬ時は
おとる水山乃けしうつゝ枝にかゝふあるくらる
ふれ行やかのあらとあかさみとうつ

まこゝ出ぬ雲乃ちら紫と成てそうこう桜色し
浪ちとふる雲漢ちかを也こゝ仏浦ちれくゝ
池ちこゝ出ぬ雲乃ちら紫と成てそうこう桜色し
ふかしこゝるのさ京風さして花の色ちこゝ
月のたゝ立ちゆちゝ池月のちゝ立りこゝ
ちれ立り村也こゝ月の白こゝ多ゝ雲か
山里ハ月のけれこゝれぬ雪ちゝ絶ちん
ちこゝやちまの山乃朝日こゝ松くこゝ雪か
立浪乃こゝ立へこゝ立こゝ雪こゝ
池こゝ立雪乃月ハけこゝ井こゝ澄

つもりて世をいとふ法師の者ども
侍りてらるゝとて心ばかりの御餞をなん
こゝろざしとて人々の後にはなをさりてせて
つきとるき人の心乃内をいとはゆるさ
こゝせんつれづれさ立てこゝろ深くくやるれば
あひてのなごりいとふかくつきうるのうけ
きて後にはいかにさらせんとうるる袋
人々はなびかれ浦の夕嵐いとゆくりなし
ゆくとをこゝろ乃ほとりとふとそ思うさ身の

そうるやうとあれとこゝ乃ほとりに行りめぐる法
そうし此三人いとわい袋らあ袋ひとたいし恨
ほうきてきの心ゆくるの文あ人二たえ神といとれ
あつとうくさあわ者ども多るうりうてまて行せて後
あくねとしらうしきロれしるとものひとかうる侍人
つれづれとはるれこて行ものくるを明のそ
いるるん世しるいるはるるるといひまれ涙うれし
うるまとて三てるるるるるるるるとうるる小
あり世の行人りるまて後るるる面けしば
うとなるとこいるこ方うるこ方りはるうるこ方りはるうるこ方りはるう

[illegible]
いつとなくうゑみて志ゐる人命なるに
[illegible]
[illegible]
[illegible]